

ウイルス性胃腸炎

秋から春にかけて、寒い時期を中心に、乳幼児で、吐いたり、下痢をする病気が多くみられます。時に熱のでることがありますが、これは、ウイルス性胃腸炎といわれるものです。「おなかのかぜ」と呼ばれることもありますが、せきや鼻汁のみられるかぜとは原因になるウイルスがちがひ、ロタウイルスがその代表的なものです。

多くの場合、数時間で吐くのはおさまりますが、吐くのが続く時は要注意です。特に幼いお子さんでは、症状が強くなる傾向があるので、脱水にならないように気をつけましょう。吐き気が強い時は、しばらくは飲むのを控えて、吐き気が落ち着いてきたら、水分を取らせましょう。イオン飲料やお茶などを組み合わせるとよいでしょう。水分がとれて食欲がでてきたら、少しずつ消化の良いものを食べさせて下さい。食べることをあまり急ぐ必要はありません。吐いたり、下痢の回数から脱水の程度をみるのが大切です。目が落ち込んだり、おしっこの回数が極端に減ったときは脱水がある程度進んでいます。さらに水分が補えない時は、早めに受診しましょう。

1～2日で家族の他のメンバーにうつることがあり、学童や大人でも吐いたり下痢をするという症状がみられることがあります。

吐いたり下痢をする病気は他にもあります。特に血便がみられる時は、細菌性のことがありますので、病院や診療所で相談して下さい。

平成12年 1月
西垣 正憲